



「INTEGRATOR」で育てるコンピテンシー —各教科の授業実践—



本校では、全教科・全科目でコンピテンシーを意識した授業づくりに取り組んでいます。

特に、本校が独自に整理した10のコンピテンシー「INTEGRATOR」を手がかりに、生徒が主体的・対話的に学ぶ授業をめざしています。こちらでは、その一部を「授業実践例」として紹介します。各実践が、どのコンピテンシーをどのように育成しようとしているのか、授業のねらいや工夫、生徒の様子とともにお伝えします。

情報

箱ひげ図と散布図行列でデータの関係を読み解く

ねらい：E（分析力）・O（整理力）・N（課題発見）を意識し、箱ひげ図や散布図行列などの可視化ツールから複数のデータを比較・整理し、その背景にある事柄を考察して仮説を立てる力を伸ばす

授業の流れ・工夫

入試データをMS Teamsで共有し、数値から想像できることを全体で確認した後、3人グループで箱ひげ図・散布図行列を見て「気づいたこと」を付箋形式でできるだけ多く書き出した。MetaMoji上で「読み取れる事実」と「そこから考えられる仮説」に分類し、さらに複数のデータを組み合わせて説明できる視点を話し合ったうえで、テキストの問題に取り組み、解説を聞きながら選択肢の根拠を分析した。



担当：松崎 教諭

生徒の様子・変化

はじめは「平均が高い」「ばらつきが大きい」といった単発の読み取りにとどまっていたが、付箋を分類する過程で「2つの項目を比較したり、仮説と別のデータを関連づけて考える必要があることに気づく姿が見られた。散布図行列では「相関が強い項目」「ばらつきが大きい項目」に着目する生徒が増え、「この項目が伸びる理由は〇〇なのでは」など、自分なりの仮説を言葉にするようになった。

教員コメント

箱ひげ図や散布図を「読む」だけでなく、MetaMojiで可視化しながら事実と仮説を分けて整理させたことで、複数データを組み合わせて説明する力の伸びを感じた。一方で、仮説を検証するために「どんなデータをさらに集めればよいか」という視点は十分でなかったため、今後はデータ収集やモデル化につなげる活動へと発展させたい。

家庭

超高齢社会で、自分にできること・役割を考えよう

ねらい：N（課題発見）・E（分析力）・TE（倫理的思考）を意識し、高齢者に関するデータから現状と課題を読み取り、超高齢社会で自分が果たせる役割を考えられるようにする。



担当：金丸 教諭

授業の流れ・工夫

これまで学習した「高齢者の身体的特徴や制度」を全体で振り返ったあと、本時の目標を共有。「健康・孤立・デジタル・お金」の4テーマごとの統計グラフを提示し、グループで①グラフから読み取れる現状②その背景にある課題③高校生として自分たちにできることをワークシートに整理した。最後に、同じテーマの他グループと意見を交流し、代表グループが発表した。

生徒の様子・変化

はじめは「高齢者は大変そう」など漠然とした言葉が多かったが、データをもとに話し合うことで「一人暮らし世帯の増加」「スマホ手続きの負担」など、具体的な困りごとに目を向ける姿が見られた。また、「買い物を手伝う」「スマホの設定を教える」など、自分たちが今からできる行動を前向きに発言する生徒が増えた。

教員コメント

高齢者の課題を「自分ごと」として考える入口として、データから考える活動は有効だった。一方で、「制度」や「地域の支援体制」とのつながりまでは十分深めきれなかったため、今後は総合的な探究の時間と連動させ、地域調査や福祉施設との交流へと発展させたい。